

Support 21 

Vol.49 2012.11

Newsletter

2012年度「さぼうと21支援生とのつどい」のご案内

在日難民などが語る 「今、日本社会に伝えたいこと」

日本に定住する難民や中国帰国者の子弟など、外国にルーツを持つ私たちの生の声をお伝えします。

日本郵便 平成24年度 年賀寄附金配分事業

今年も12月に、さぼうと21支援生の研究発表会を開催いたします。今回は、「坪井一郎・仁子 学生支援プログラム」(通称「坪井基金」)の受給者である支援生の口頭発表と、過去の支援生を招いたパネルディスカッションを行います。第1部では、支援生が個人発表を行います。今年8月に宮城県の被災地で実施した夏期研修会(p.2参照)の体験を語る学生、国内外での学会発表の経験を生かして、研究報告を行う学生など、それぞれの支援生が活動報告をいたします。第2部では、社会人となった元支援生がパネリストとして参

加し、「日本の国際化を考える」をテーマに、外国出身者も日本人も住みやすい社会づくりに向けて、それぞれの立場から語ってくれる予定です。今年度の坪井支援生は来春に就職を控えた学生が多く、夢の実現に向けて努力を重ねつつ、自分の道を切り拓こうとしています。支援生や、既に日本社会で活躍中の先輩(元支援生)などの外国出身者が、震災後の新たな社会づくりを念頭に、日本社会の一員として発言いたします。皆様のご来場をお待ちいたしております。

2012年(平成24年)12月26日 (水)

開演：14:00

場所：**日本記者クラブ**

東京都千代田区内幸町2-2-1
日本プレスセンタービル9階

入場無料：事前にお申込みください。
(先着70名様)

お申し込みは、お電話、FAX、Emailにて受け付けております。

プログラム

- | | |
|-----|---|
| 第1部 | ・ご挨拶 理事長 吹浦 忠正 ほか
・さぼうと21支援生による発表 |
| 第2部 | ・パネルディスカッション
「日本社会の国際化を考える」
先輩から後輩へのメッセージ
・懇親会 (10階)
・モデレーター：山田 寛 (さぼうと21 理事) |

※当日のプログラム内容が一部変更される場合もございます。
ご了承ください。

ご協力よろしくお願いします。

さぼうと21への会費・ご寄付とも税法上の優遇措置が受けられます。

2012年度 夏期研修会

2012年8月26日～8月29日 開催

東日本大震災 被災地支援の一環として

宿泊先:宮城県青年会館
(仙台市内)

1日目 被災地訪問に関する勉強会

「東日本大震災 私たちは何を学ぶか?地域再生とは?」をテーマに、昨年8月、仙台市内にて被災者の方々をご招待したチャリティ・コンサートでもご協力頂いた松館 忠樹氏に、震災後1年半の状況や、被災地訪問の心構えなどをお話し頂きました。



講師:松館 忠樹氏
(ジャーナリスト、元NHK仙台支局長)

2日目 ① 図書寄贈プロジェクト

夏期研修会の活動の一環として、被災地へ贈る小説、児童書、絵本、趣味の実用書、マンガ、文庫本等の蔵書の提供を全国に呼びかけました。貴重な書籍約3000冊が集まり、研修会参加者が仕分けをして、以下の施設に寄贈しました。学生は、自分たちで組み立てた本棚に寄贈本を並べ、図書コーナーづくりに取り組みました。



気仙沼にて、炎天下の本棚組立に汗を流す支援生。
寄贈本の中には、著者のサイン本もありました。



学研の有志の方々、さばうと21の会員・寄付者・学習支援室ボランティア講師の方々をはじめ、多くの方々から蔵書をお贈りいただきました。



仮設商店街に集まるお子さんやお母さん方のための図書コーナーが、コンテナハウスの中によく完成!

今回本をお届けした施設(宮城県)

気仙沼鹿折復興マルシェ(仮設商店街)

ささえ愛山元(山元町・高齢者施設)

女川地域福祉センター

WATALIS(亘理町・手芸工房)

女川地域福祉センターにて、利用者の方々と。「さっそく読んでいますよ!」今後は、ニーズの高い新刊本を購入し、定期的に寄贈する予定です。



2013年度 「坪井一郎・仁子 学生支援プログラム」 募集要項

応募資格	募集人数	募 集 人 数	給 付 金 額
【日本での在留資格等】 日本在住の外国籍・元外国籍の学生で、下記の①②のいずれかに該当する者。 ① インドシナ難民・条約難民およびその子弟 ② 中国帰国者子弟および日系定住者とその子弟 *上記①②と同等の事情があるとみなされる外国籍・元外国籍の方も対象となる可能性があります。 *留学生ビザの学生は支援の対象となりません。 【応募時の学年】 2013年度において大学3年生以上、または大学院(修士・博士課程)在籍の者。	10名程度		■ 大学院生: 60～100万円/年 ■ 大学生: 40～80万円/年 *返済の義務はありません
募 集 期 間 2012年 11月13日(火)～12月13日(木) 必着 *提出書類は一切返却いたしませんのでご了承ください。 提出いただいた書類は選考以外の用途には使用しません。	給 付 期 間	2013年 4月～2014年 3月 (給付期間中に受給資格を喪失した場合は、給付を打ち切ります)	

本年度は、日本郵便「平成24年度年賀寄附金」の配分を頂き、8月下旬、難民等の外国出身学生のための夏期研修会を開催しました。今年度の夏期研修会は宮城県の被災地にて行われ、関東・関西各地に住む高校生から大学院生までの学生や関係者など約70名が参加しました。震災の傷跡が未だに残る宮城県内の被災地を訪問し、ボランティア活動(以下の「図書寄贈プロジェクト」)、被災者の方々との鳴子温泉での交流会、現地で活躍中の方々をパネリストに招いてのシンポジウムなどを実施しました。

2日目 ② 鳴子温泉交流会

8月27日に、宮城県石巻市北上町十三浜字吉浜地区の被災者約20名を鳴子温泉の鳴子ホテルにご招待し、外国出身学生や当会関係者などとの交流会を行いました。

吉浜地区は地震と津波で大きな被害に遭いましたが、遠隔地のため行政などの支援が行き届かず、約55世帯のうち現在は15世帯のみが、壊れたご自宅を修理して地域に留まっています。鳴子温泉は以前から石巻市、南三陸町、女川町などの沿岸部と人の往来があり、震災直後から避難所として多くの被災者を受け入れてきた地域です。

被災後、列々の仮設住宅等にお住まいになっている方々が、久しぶりに鳴子温泉で再会し、親しいご友人同士、楽しいひと時を過ごして頂くことができました。また、当会が支援している学生にとっても、日本に定住する上での自らの経験を語る一方、震災の辛い体験を伺って、被災地域の再生や、自分の地域における減災・防災の取り組みについて考えを深める場となりました。



鳴子温泉での
交流会



津波で破壊された石巻市立門脇小学校の跡。
言葉もなく、ただ頭を下げる支援生たち。



石巻湾を望む。
津波が恐ろしい速さで押し寄せ、港湾の建物が壊滅した。

3日目

夏期研修会記念事業 シンポジウム

「日本の国際化社会を考える集い

～定住する8ヵ国出身の支援生とともに～

震災直後より県内在住の外国人の支援に心を砕いてきた宮城県国際化協会の大村氏、「お父さんたちのネットワーク」の世話人として、地域の方々に寄り添った支援活動を続けてきた石垣氏、東北大学国際交流支援室を担当され、罹災した留学生のサポートにも携わってきた末松氏をゲストに迎え、当会の役員の水上監事、山田理事や支援生とともに、震災後目指すべき日本社会のあり方について、活発なディスカッションが行われました。

モデレーター:吹浦 忠正(社会福祉法人 さばうと21 理事長)



パネリスト(敬称略)

石垣 政裕	東北大学大学院経済学研究科
大村 昌枝	宮城県国際化協会
末松 和子	東北大学大学院経済学研究科
水上 洋一郎	日韓文化協会顧問、元東京入国管理局長
山田 寛	元嘉悦大学教授、元読売新聞アメリカ総局長

ご支援・ご協力ありがとうございました

- ・石垣 英孝様(宮城県青年会館 理事長)
- ・沼田 健一様(岩沼市議会 議員)
- ・東北大学国際交流支援室
- ・サンキョー株式会社
- ・セガサミーホールディングス株式会社
- ・学研の有志の皆様
- ・照井 貴広様(宮脇書店 鹿島台店 店長)
- ・鳴子ホテル
- ・鳴子国際交流協会
- ・板垣 幸寿様(山ふところの宿みやま)
- ・女川町観光協会
- ・AAR Japan 仙台事務所

(順不同)

天満 敦子

ピアノ:吉武雅子

ヴァイオリン・リサイタル

予告

東北ツアー

被災地の方々をご招待いたします。

2013年 3月22日(金)	田村ピアノ教室(岩手県陸前高田市)
3月22日(金)	リアスホール(岩手県大船渡市)
3月23日(土)	女川町包括支援センター(宮城県女川町)
3月24日(日)	南相馬市民文化会館(福島県南相馬市)
3月25日(月)	福島市音楽堂(福島県福島市)

東京 公演

日時:平成25年3月29日(金)
場所:浜離宮朝日ホール

学習支援室だより

いっしょに笑える幸せ。。。

夏から秋にかけて、学習支援室では様々な行事が続いています。

7月には川柳コンテストが行われ、62句の応募がありました。その中から、大人の部では、ドイラさんの作品

「席どうぞわたしにですか ショックだわ」

未成年の部では、小学校2年生のサム君の作品

「おじぎ草さわって僕もおじぎする」

が選ばれました。ニヤッと笑って、くり返し62の作品を読み返す人の姿があちこちに見られました。

8月には、柳亭芝楽師匠のご協力で、「ミニ落語会」が開かれました。師匠の表情や言葉の一つ一つを一生懸命に追いかけて、面白さが分かって、「ゲラゲラ」の笑い。

そして、9月には木場公園に出かけて、バーベキューを楽しみました。おいしいものを戸外でお腹いっぱい食べると、誰でもニンマリしてしまうもの。そして、広い公園で大人も子供も思いっきり走ったり跳んだり。「アハハハ」の元気いっぱいの笑い声が公園中に響いていました。

いっしょに笑える幸せを行事のたびに感じます。

企業のみなさまからの応援

株式会社ミリオンインターナショナル(東京都練馬区)様より、100万円ご寄付をいただきました。お寄せ頂いたご芳志は活動の充実のために心して使わせて頂きます。心より御礼申し上げます。ミリオンインターナショナル様はさぼうと21の活動にご理解を示して下さい、継続してお力添え下さっております。



7月25日には事務局長がお尋ねをして小島豊代表取締役社長(写真左)に活動のご報告をさせていただきました。

※さぼうと21へのご寄付は確定申告の際、寄付金控除の対象となります。



Newsletter

Support21 Social Welfare Foundation

Vol.49 2012.11

社会福祉法人 さぼうと21

理事長 吹浦 忠正

社会福祉法人さぼうと21は...

日本国内で生活するうえで困難をきたしている難民やその家族、在日外国人および元外国籍の人々の相談に乗り、また自立支援活動を行う社会福祉法人です。認定NPO法人難民を助ける会(AAR JAPAN)を母体に、その国内事業を受け継ぎ、厚生省(当時)認可の社会福祉法人として1992年に設立されました。「困った時はお互い様」をモットーに、日本国内で政治、宗教に中立な立場で活動しています。学業継続のための経済支援を中心に、生活困窮者に対する幅広い生活支援を実施しております。

私たちの活動を応援してくださる方を求めています!

■会 員：法人会費 50,000円

：個人会費 5,000円

■ご寄付：随時受付

会費・ご寄付とも税法上の優遇処置が受けられます

◆会費・寄付のご送金口座◆

ゆうちょ銀行	振替口座:00180-7-25470 加入者名:社会福祉法人 さぼうと21 ※通信欄に会費または寄付とご明記ください
三井住友銀行	目黒支店(普)851872 名義:社会福祉法人 さぼうとにじゅういち
みずほ銀行	目黒支店(普)1180279 名義:社会福祉法人 さぼうとにじゅういち ※銀行振込み後は事務局までご一報ください

お問い合わせ

住所:

〒141-0021
東京都品川区上大崎2-12-2ミズホビル3階

TEL:

03-5449-1331

FAX:

03-5449-1332

E-mail:

info@support21.or.jp

URL:

http://www.support21.or.jp

印刷会社:

秋田協同印刷株式会社

編集・発行:

社会福祉法人 さぼうと21

